

I N T R O D U C T I O N

仮想化ソフトならメリットがいっぱい! “MacでWindows”を今すぐ始めよう

変わりゆく「MacでWin」事情

Macでウィンドウズを動かしたいというニーズは以前から根強くあり、実現方法も複数存在していました。しかし最近、アップルが自社開発のプロセッサ、いわゆる「アップルシリコン」をMacに採用したことで、事情が少し変わってきました。これまでアップルは、Macでウィンドウズを利用するための手段として「ブートキャンプ(Boot Camp)」という機能を用意していました。これはMacのストレージ内にmacOS用の起動ボリュームとウィンドウズ用の起動ボリュームを設けて、どちらからでも起動できるようにする機能です。

仮想化ソフトの主なメリット

現状、アップルシリコン搭載Macでウィンドウズを使い、いのある「仮想化ソフト」が有力の選択肢といえるでしょう。仮想化ソフトとは、macOS上に擬似的なPC環境となる「仮想マシン」を作成し、実行するソフトです。仮想マシン(ゲストOS)は、それ自体が1つのソフトのように振る舞うため、macOSのほかのソフトと同時に起ち上げておくことが可能です。

仮想化ソフトでウィンドウズを動かす最大のメリットは「Macでさまざまなウィンドウズ用ソフトを利用できるようになる」ことです。それだけではありません。

たとえば、Macとウィンドウズマシンを別々に用意するより、省スペースで済むということ。もちろん、別々にマシンを用意する場合に比べてコストも抑えられます。また、1台のMacに複数の仮想化環境を構築できる点もメリットの1つ。

仮想化ソフトでは、まるで1つのソフトを操作する感覚でMac内でWindowsを利用できます。



第3
特集

Appleシリコン搭載Macで
「Windows 11」を使いこなそう!

「Parallels Desktop 18」で

Mac & Windows 快適! 共存生活

Macユーザであれど、Windowsマシンを利用したいシーンは多々あります。そんなとき、最新の仮想化ソフト「Parallels Desktop 18 for Mac」を使えば、誰でも簡単にMac内にWindows環境を構築することが可能です。

本特集では、Parallels Desktop 18でWindows 11をセットアップする手順をはじめ、実際にどこまで快適に使えるのかなど、使用感を含めて隔々まで解説していきます。

文●小平淳一 イラスト●鈴木順幸 写真●黒田彰



特に、さまざまなテスト環境が必要な開発者にとって恩恵が大きいと言えます。

加えて、macOSとシームレスに連係できる点も仮想化ソフトの大きな強みです。Mac内にあるファイルを簡単にウィンドウズ用ソフトで開いたり、Macでコピーした文字列を

ウィンドウズ用ソフトでペーストするといったことが可能になります。

本特集では、仮想化ソフト「パラレルス・デスクトップ(Parallels Desktop)」を使いながら、Mac上でウィンドウズを活用するためのノウハウをイチから紹介します。

パラレルス・デスクトップには、スタンダード版のほかに、2つのエディションが用意されています。

プロ版 (Pro Edition) は、1つの仮想マシンで別の仮想マシン上のプログラムをテストできる「ビジュアルスタジオ (Visual Studio) プラグイン」など開発者向けの機能が強化されています。また、プロ版は仮想マシンあたりのメモリ上限やCPUコア数の上限が多いのも特徴。マシン負荷の高い処理があり、なおかつMac自体のパフォーマンスが高い場合はプロ版をおすすめします。

法人の場合は、ビジネス版 (Business Edition) という選択肢もあります。ライセンスを一元管理できるなど、多数数の活用がしやすいのが特徴です。なお、パラレルスを購入する際は、買い切りにするかサブスクリプションにするかも検討が

スタンダード版とプロ版のどちらを選べばいい？

●エディションによる主な機能の違い

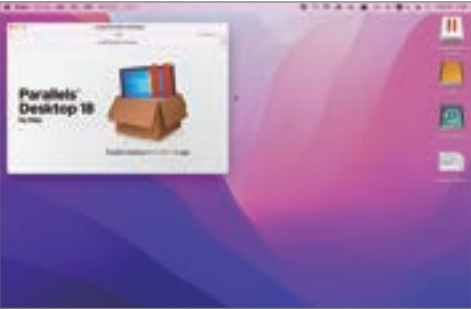
	Standard Edition	Pro Edition	Business Edition
ワンクリックでWindows 11をダウンロード(※1)	○	○	○
セットアップせずにWindowsでゲームコントローラを使用	○	○	○
Visual Studioプラグイン	—	○	○
コマンドラインツールによる自動化	—	○	○
Vagrant / Docker / Packer / Minikubeとの統合	—	○	○
仮想マシンあたりの仮想メモリ上限	8GB	128GB (※2)	128GB (※2)
仮想マシンあたりのCPUコア上限	4コア	32コア(※2)	32コア(※2)
事前構成されたWindowsをダウンロード可能	—	—	○
一元化された管理および制御	—	—	○
パラレルス オンライン ストアの価格(新規ライセンス)	1万400円/年	1万1700円/年	1万4700円/年

(※1) 正規製品ライセンスは別途購入する必要あり (※2) Appleシリコンの場合、最大メモリが62GB / 最大CPUコアが18コア

必要です。買い切りの場合、1度購入すれば以後の支払いは発生しませんが、利用できるのは購入時のバージョンのみ。一方、サブスクリプション版の場合は、契約期間中にソフトのバージョンアップが行われた場合、いつでも最新バージョンにアップデートすることができま(プロ版とビジネス版はサブスクリプションのみ)。

「Parallels Desktop 18」のインストール手順

2 ダウンロードが完了すると、デスクトップにインストーラが表示されます。ダブルクリックしてインストールしましょう。



1 「Parallels Desktop」は公式ホームページから購入できます。トライアル版も公開されており、誰でもすぐに試すことができます。



4 その後、使用許諾書の同意などを経てインストールが行われます。ソフト自体のインストールは数分以内に完了するはず



3 Macのセキュリティ機能(ゲートキーパー)による警告が表示されますが、[開く]を選んで先に進めます。



6 [デスクトップ]や[書類]フォルダへのアクセスを求めるダイアログが表示されるので[OK]を選びます。この操作が終わると、Windowsのセットアップに進みます。



5 インストールが完了すると、セットアップのためのウィンドウが表示されます。[次へ]を選んで進めましょう。



CHAPTER 1

「Parallels Desktop 18」をMacにインストールしよう

Appleシリコン搭載Mac内にWindows環境を構築するには、まず「Parallels Desktop 18」を入手しましょう。ここでは、同ソフトの最新機能の概要やエディションの違い、インストール方法について解説します。



Macユーザーが悩むことなく使える

「パラレルス・デスクトップ (Parallels Desktop for Mac)」は、登場から16年目を迎える老舗の仮想化ソフトです。バージョンアップのたびに改良を重ね、使い勝手の良さが多くのユーザーから支持されています。今やMac用仮想化ソフトのデファクトスタンダードだといえるでしょう。

パラレルス・デスクトップでは、ウィンドウズだけでなく、リナックス (Linux) などさまざまなOSを動かせます。さらには、macOS上で別のmacOSを仮想マシンとして動かすことも可能です。それらのOS (ゲストOS) は、

macOS上で1つのソフトのように扱われます。起動領域を切り替えて使うブートキャンプと違い、Macそのものを再起動することなく、ゲストOSを起動できるのです。ウィンドウズ用ソフトを使いたいときにサッと起ち上げられる手軽さが魅力といえるでしょう。

また、パラレルス・デスクトップは、Macとの親和性が高いのも特長です。macOSとゲストOSの間でコピー&ペーストをシームレスにできるうえ、ファイルのやりとりも簡単。さらに、Macに接続した周辺機器がゲストOSですぐに認識されるなど、Macユーザーが手間なくゲストOSを活用できる工夫が豊富に盛り込まれています。

今年8月には最新版となるバージョン「18」がリリースされました。この最新版では、アップルシリコンを搭載したMacとインテルCPUのMacの両方で利用可能です。バージョン18では、Macの最新テクノロジーへの対応を強化。たとえば、プロモーション (ProMotion) テクノロジーに対応し、macOS側で設定したディスプレイのリフレッシュレートが自動でウィンドウズに反映されます。また、M1ウルトラ (M1 Ultra) 搭載のMacスタジオ (Mac Studio) では、より多くのメモリとCPUコアをウィンドウズに割り当てられるようになり、マシンパフォーマンスを引き出しやすくなっています。もちろん最新のmacOSベンチュラ (Ventura) にも対応予定です。

また、ワンクリックでウィンドウズ11をダウンロード/インストールできるようになっている点や、Xboxやプレイステーション (PlayStation) 用のコントローラをすぐにウィンドウズで認識できるといった使い勝手の向上も、注目ポイントと言えるでしょう。

最新テクノロジーにいち早く対応



「Parallels Desktop」では、[デスクトップ]や[書類]フォルダなどをmacOSとWindowsで共有できるため、ファイルのやりとりが簡単です。

最新バージョンの「Parallels Desktop 18」ではProMotionテクノロジーに対応。対応するMacのシステム環境設定で[Pro Motion]を選ぶと、Windows側のリフレッシュレートも[120Hz]に変わります。



6 インストールされたWindowsは、ライセンス認証がされていません。ライセンスを持っている人は[プロダクトキーを変更する]から入力します。ライセンスを持っていない人はMicrosoft Store経由で購入できます。



5 [スタート]メニュー→[設定]→[Windows Update]を選び、Windowsを最新の状態にアップデートしておきましょう。



8 Mac内にインストール用のディスクイメージ(ISOファイル)がある場合、自動的に見つけてくれます。[続行]ボタンを押して進めていきましょう。



7 Intel CPUを搭載したMacの場合、Windows 10など古いOSをインストールすることも可能です。その場合は[DVD / イメージファイルからWindows / その他OSをインストール]を選びます。



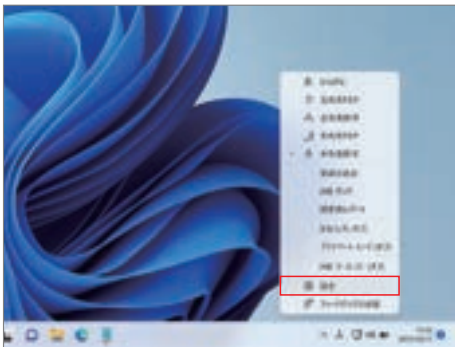
Macのキーボードに合わせてキー設定を変更しよう

MacBookシリーズの内蔵キーボードや外付けのMagic Keyboardなどを使っている場合、標準設定のままだとParallels Desktop上のWindowsで思いどおりに入力できない文字が出てきます。たとえば、「@」を入力したいときに「[@]」が刻印されているキーを押しても入力できないため、かなり不便に感じるでしょう（[shift] キー＋[2] キーを押すと「@」が入力されます）。この問題を解決するには、Windows上で設定を変更する必要があります。

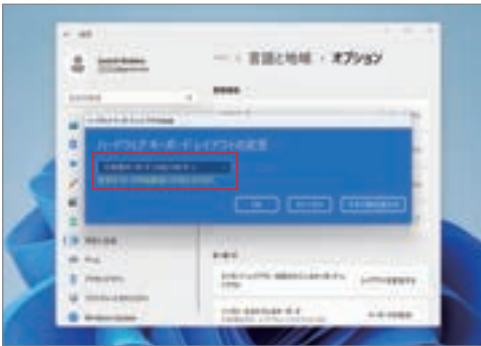


1 [設定]→[時刻と言語]→[言語と地域]と進むと、使用言語に「日本語」が表示されます。右側にある「…」を押して「言語のオプション」を選びましょう。

3 再起動後、タスクバーにある[A][あ]などの文字を右クリック(または[control] キー＋クリック)して、メニューから「設定」を選びます。

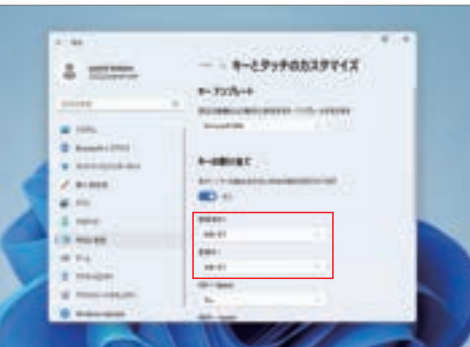


まず、設定を行う場所が階層の深いところにありますが、手順を見ながら進めていってください。また、「[かな] キー」と「[英数] キー」を使って入力ソースを切り替えることができない点も、多くの人が不便だと感じるでしょう。この点も、Windowsの日本語入力設定を変更することで解決できます。どちらも設定方法が複雑ですが、文字入力の快適さが格段に変わるので忘れずに設定しておきましょう。



2 [キーボードレイアウトの変更]ダイアログが表示されるので、「日本語キーボード(106 / 109)キー」を指定して「[今すぐ再起動する]」を選択します。

4 [キーとタッチのカスタマイズ]を選び、[無変換キー]に「[IME-オフ]」、[変換キー]に「[IME-オン]」を割り当てます。



CHAPTER 2

Parallels Desktopを使ってWindows 11をインストールしよう

「Parallels Desktop for Mac」を入手したら、次はWindowsをインストールしましょう。Parallels Desktopでは、Windowsのインストールもとっても簡単。ここでは、実際のインストール手順に加えて、便利なキー設定を解説します。



Macの種類によって使えるOSが異なる

パラレルス・デスクトップのインストールが完了したら、いよいよウィンドウズのインストールに進みましょう。パラレルス・デスクトップにインストールできるウィンドウズの種類は、MacのプロセッサがアップルシリコンかインテルCPUかで異なります。まず、アップルシリコンの場合、インストールできるのは最新のウィンドウズ11のみです。少し細かな話をする、アップルシリコンというプロセッサは「ARMアーキテクチャ」というCPUの仕様をベースに開発されており、パラレルス・デスクトップにインストールできるのは、ARM版のウィンドウズ11となります。一方、インテルCPUを搭載したMacにインストールできるのは、インテルCPU版のウィンドウズです。パラレルスはウィンドウズ11の使用を推奨していますが、ウィンドウズ10など古いウィンドウズOSもインストールが可能です。ARM版とインテルCPU版のウィンドウズは、機能面で違いはありません。使用するソフトによってはARM版に最適化

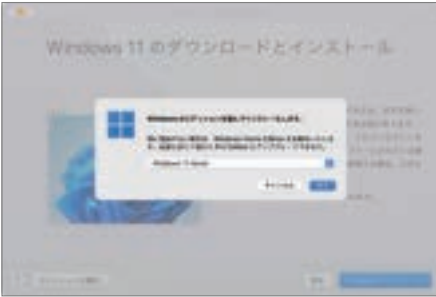
機能	Windows 11 Home	Windows 11 Pro
基本的な機能	○	○
リモートデスクトップ(クライアント)	○	○
リモートデスクトップ(ホスト)	—	○
BitLocker デバイス暗号化	—	○
Windows 情報保護 (WIP)	—	○
Active Directory のサポート	—	○
グループ ポリシー	—	○
MDM	—	○
Microsoft Store 価格(執筆時点)	1万9008円	2万7864円*

Home版からPro版にアップグレードする場合の価格は、現在1万3824円です(Microsoft Store価格)。Windows 11のライセンスは、Microsoft Storeだけでなく家電量販店や各種ショッピングサイトでも購入できます。

されていない場合がありますが、たとえば最適化されていなくても、基本的には問題なく動作します。なお、ウィンドウズ11には、大きく分けてホーム版とプロ版という2つのエディションが存在します。プロ版にはリモートデスクトップやストレージの暗号化など高度な機能が用意されていますが、パラレルス・デスクトップで一般的なウィンドウズソフトを使うだけならあまり必要になることはないでしょう。ホーム版を使い始めたあとでプロ版にアップグレードすることもできるので、特に理由がなければホーム版をインストールするのがおすすめです。

「Windows 11」のインストール手順

2 インストール時にエディションを選択することが可能ですが、特に理由がなければそのまま「Windows 11 Home」を選んで進めましょう。



1 まずはAppleシリコン搭載Macでのインストール手順を見ていきましょう。「Parallels Desktop 18」をインストール後、「MicrosoftからWindows 11を入手」を選択し、「続行」ボタンを押します。



4 「インストールが完了しました」という表示が出てきたら完了です。クリックして先に進みましょう。



3 インターネット経由でインストールファイルがダウンロードされます。この画面に切り替わったらしばらく待ちましょう。



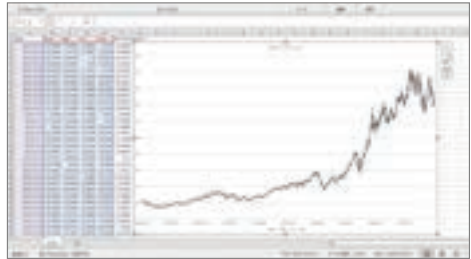
最近のマイクロソフト・オフィス (Microsoft Office) はMac版とWindows版との互換性が高く、Mac版で開くと体裁が崩れてしまうといった問題が起きることも少なくなりました。しかし、エクセル (Excel) の場合、書類にマクロ (VBA) というプログラムが含まれているときは厄介です。Mac版のエクセルでもマクロは使えますが、Windowsで作ったマクロはMacで動かないこともあるのです。

そうした書類を開くには、やはりパレルス・デスクトップが役立ちます。パフォーマンスも十分実用的で、膨大なデータのグラフ化を試みたところ、処理が一瞬で完了しました。実はマイクロソフトオフィスもARMプロセッサに最適化されており、快適なパフォーマンスにつながっています。

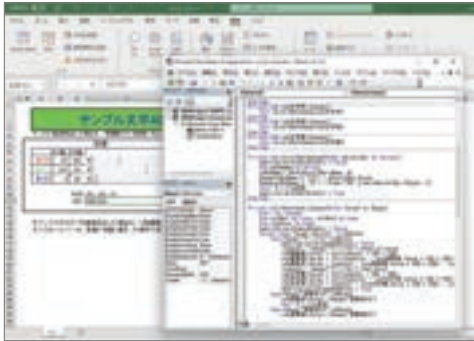
ほかに、Windowsだけに提供されているビジネスソフトはいくつもあります。たとえ

ば、メジャーなものでは、データベースソフト「マイクロソフト・アクセス (Access)」を仕事で活用している人は案外多いのではないのでしょうか。また、会計ソフトや投資系のソフトは、最近では徐々にクラウドアプリ化する傾向にありますが、それでも使い慣れたデスクトップ版ソフトが手放せない人も多いはず。こうしたソフトをMac上で使うのにも、パレルス・デスクトップが重宝します。

また、最近ではリモート会議を行うシーンが一般的になりましたが、パレルス・デスクトップ上の「ZOOM」ソフトは何の問題もなく動作しました。面倒な設定を行うことなく、MacのフェイスタイムHDカメラや内蔵マイクをそのまま利用可能。単にビデオ会議をするだけならMac版のZOOMを使えばよいのですが、画面共有でWindowsの画面を見たいときに活用できるのではないのでしょうか (もちろん、Mac版ZOOMでパレルス・デスクトップのウィンドウを共有する方法も可能です)。



Parallels Desktop経由でExcelでAppleの10年分の株価の推移をグラフ化(ローソク足)。2500日分を超える膨大なデータですが、1秒もかからずに処理が完了しました。



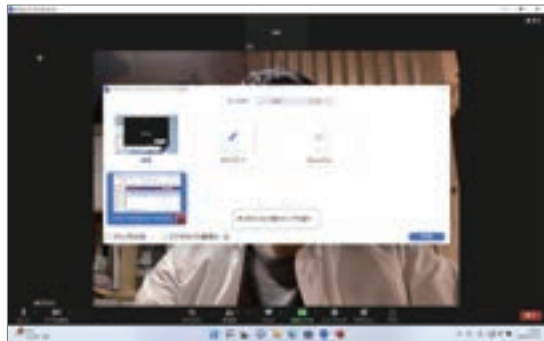
ExcelのマクロはVBAというプログラムで作られています。VBAの命令の中にはMacで動作しないものもあり、Windows版のExcelが必要になることがあります。



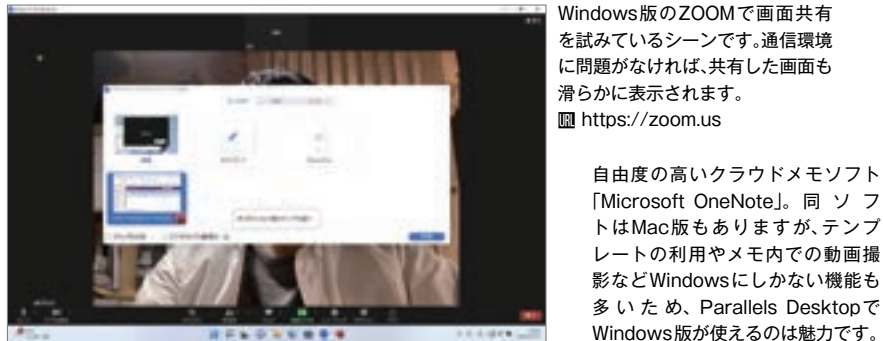
左の写真は、FX自動取引ツールの「MetaTrader 4」。刻々と変わる値動きもしっかりと表示してくれます。
📄 <https://www.metatrader4.com/ja>



直感的に使えるデータベースソフト「Microsoft Access」は、サブスクリプションプログラム「Microsoft 365」に加入していれば使うことができます。Parallels Desktopでも快適に動作しました。



Windows版のZOOMで画面共有を試みているシーンです。通信環境に問題がなければ、共有した画面も滑らかに表示されます。
📄 <https://zoom.us>



自由度の高いクラウドメモソフト「Microsoft OneNote」。同ソフトはMac版もありますが、テンプレートの利用やメモ内での動画撮影などWindowsにしかない機能も多いため、Parallels DesktopでWindows版が使えるのは魅力です。

オフィスはARMに最適化済み

CHECK 2

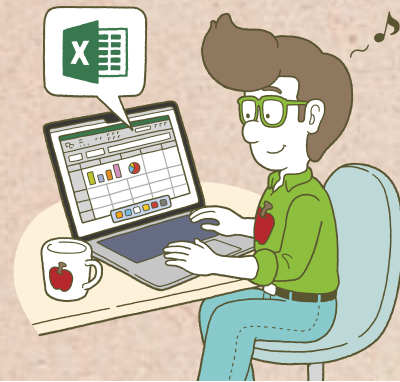


ビジネスツールの使用感

CHAPTER 3

どこまで快適に使える？
MacでWindows 11実力検証

Parallels Desktop上で動くWindowsは、実用的なレベルで動作するのでしょうか？
ここではユーザの実際の使用を想定し、Webブラウジングなどの日常的な操作、ビジネス、クリエイティブ、ゲームという4つの観点で快適さを検証してみました。



Webアプリも十分快適に動作

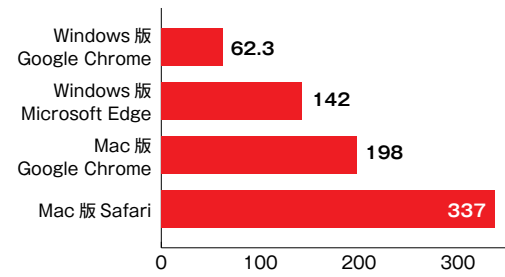
Macでウィンドウズが動かせるようになったとはいえ、macOSでできる日常的な操作は、macOSで直接行ったほうがよいでしょう。しかし、ウィンドウズでしか動作しないWebサービス／アプリは今でも存在します。そういうケースでは、パレルスを使って利用するのがおすすめです。

下のグラフは、アップルシリコン搭載のMacBook Proを使い、macOS上のWebブラウザとパレルス・デスクトップ (ウィンドウズ11) 上のWebブラウザでパフォーマンスを比較した結果です。「スピードメーター (Speedometer)」はWebブラウザの応答の速さを計測するベンチマークテスト。「ジェットストリーム (JetStream)」はJavaScriptの性能を測るテストです。

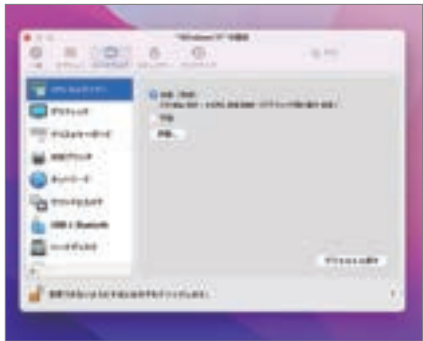
macOS上のWebブラウザと比べるとやはりスコアは劣りますが、ウィンドウズ標準の「マイクロソフト・エッジ (Microsoft Edge)」であれば、体感的には十分実用に足るレベルだと感じました。

一方、グーグル・クローム (Google Chrome) はスコアがかなり低く、体感的にも重さを感じました。これはプログラムがARMプロセッサに最適化されていないことが大きな原因だと考えられます。パレルス・デスクトップ上でWebブラウジングをする際は、マイクロソフト・エッジを使用するのがベストでしょう。

日常的な利用という文脈で、映像コンテンツの再生についても触れておきましょう。「マイクロソフト映画&テレビ」でレンタルした動画は、著作権保護機能の関係かパレルス・デスクトップ上では再生できませんでした。すでにマイクロソフト映画&テレビを活用している人の場合、せっかく購入したコンテンツがMac上で活かせないのは残念なところです。映像コンテンツを楽しみたいのであれば、別のプラットフォームを利用したほうがよいでしょう。



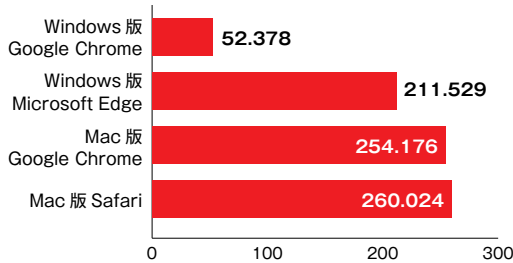
「Speedometer 2.0」によるWebブラウザの応答速度を計測するベンチマークテスト。スコアが高いほうが高性能です。
📄 <https://browserbench.org/Speedometer2.0/>



検証には、すべてM1 Proを搭載した14インチMacBook Pro (メモリ16GB) を使用しました。Parallels Desktop側の設定は、利用プロセッサ数を4コア、使用メモリを6GBにしています。



「Microsoft 映画&テレビ」では、レンタルした映画を再生できませんでした。また、Amazonプライム・ビデオは専用アプリが起動できませんでした。Webブラウザでアクセスすることで視聴ができました。再生のパフォーマンス自体は特に問題ありません。



「JetStream 2.1」によるJavaScriptの性能を計測するベンチマークテスト。こちらもスコアが高いほうが高性能です。
📄 <https://browserbench.org/JetStream/>

CHECK 1



日常的な操作の快適性

CHECK 3



クリエイティブツールの使用感

ちよつとした処理ならストレスなく動作

続いて、パレルス・デスクトップがクリエイティブ用途でも実用的に使えるかどうかを検証していきます。

まず、代表的な写真編集ソフト「フォトショップ（Adobe Photoshop）」に関しては、インストールは完了するものの、GPUが「不明なGPU（Unknown GPU）」として扱われてしまいました。機能自体はひととおり使えるようですが、Macで直接動かすのに比べると、やはりパフォーマンスは見劣りします。

フォトショップのようにMac

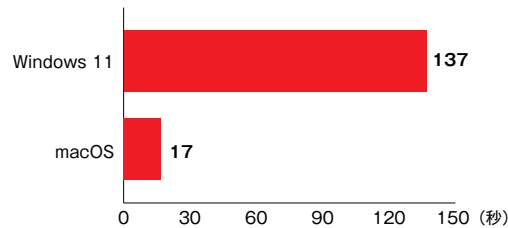
でもウィンドウズでもできることであれば、やはりMacでやったほうが快適です。しかし、すでに使い慣れているウィンドウズ用ソフトがある場合は、そちらを使いたいと考える人もいるでしょう。今回、いくつかウィンドウズ用のグラフィックソフトを検証しましたが、ちよつとした補正やフィルタなどであれば、それほどスト

レスなく動作しました。

しかし、中には画像解像度の変更など、かなり処理に時間がかかってしまう操作も出てきました。ウィンドウズ用のグラフィックソフトを使いたい場合は、負荷の高い処理を見極めつつ、Mac用のグラフィックソフトと行き来しながら使うのがよいでしょう。

また、イラスト作成ソフトではペンタブレットを使いたいところですが、ウィンドウズ上にワコムのタブレットドライバをインストールすることができませんでした。ワコムの公式サイトによると、ARM版ウィンドウズの動作はサポート外になっているようです。

しかし、MacにドライバをインストールしてタブレットをMac側で認識させれば、ウィンドウズ側のイラスト作成ソフトでも利用できました。筆圧感知も問題なく使用可能です。描き心地についても、ちよつとしたイラストであれば（たくさんレイヤーを駆使した重いデータでなければ）実用レベルだと感じました。



キャンパスの回転や画像解像度の変更、複数のフィルタなどを組み合わせたアクションを作成し、実行したときの時間を計測しました。Macで行うと一瞬ですが、やはりParallels Desktop上ではある程度の時間がかかってしまいました。



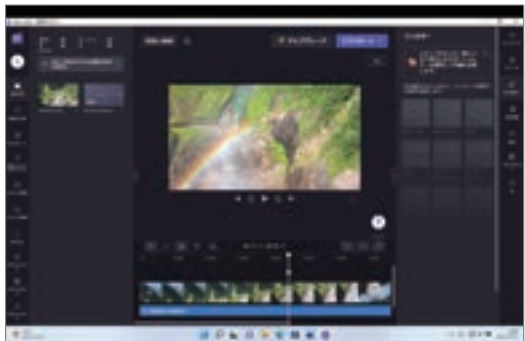
「Adobe Photoshop」では「お使いのグラフィックプロセッサは、互換性がありません」と表示されました。しかし、筆者が試した限りでは利用できない機能は見つかりませんでした。
図 <https://www.adobe.com/jp/products/photoshop.html>



ワコムのタブレットドライバはインストールできませんでした。ARM版Windowsはサポート外になっています。
図 <https://www.wacom.com/ja-jp>



写真編集ソフト「Corel PaintShop Pro 2023」を検証。色補正やフィルタなどの操作では特にストレスを感じませんでした。しかし、解像度の変更で画像を200%拡大しようとしたところ、大幅な待ち時間が発生してしまいました。
図 <https://www.paintshoppro.com/jp>



ペンタブレットをMac側で認識させたところ、Windows側のソフトでも筆圧感知ができました。イラスト作成ソフト「openCanvas」を使ったところ、ブラシの追従性も問題ありませんでした。

Microsoftの動画編集ソフト「Clipchamp」も検証してみました。1080pの動画を読み込ませて操作したところ、トリミングや色調補正、フィルタやステッカーなどの編集もストレスなく行えました。

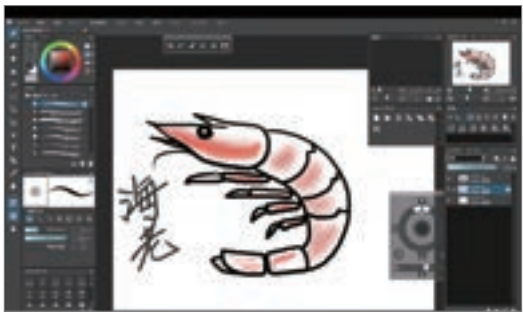


図 <https://www.portalgraphics.net/oc/>

CHECK 4



ゲームプレイの快適性

注意点はあるものの動作は快適

ウィンドウズではたくさんゲームソフトがリリースされており、MacやiPhone、iPadでプレイできないものも数多くあります。そうしたゲームを目当てに、パレルス・デスクトップを検討している人もいるかもしれません。

パレルス・デスクトップでゲームをプレイするとき、まず注意しておかなければならないのが「ダイレクトエックス（DirectX）」のバージョンです。ダイレクトエックスとは、主にゲームで使われるウィンドウズ用のAPIのこと。最新バージョンは12ですが、パレルス・デスクトップ18でサポートしているのはバージョン11までとなります。最新のゲームタイトルではダイレクトエックス12が必要なものも増えてきましたが、その場合パレルス・デスクトップでは現状動作しないため注意しましょう。ゲームの公式サイトなどに必要とするダイレクトエックスのバージョンが

書いてあることが多いので、インストール前に判断できるように。

今回いくつかのゲームを試しましたが、パフォーマンスに関して不満を感じるものはありませんでした。レースゲームやアクションゲームなどでも操作の追従性に不満を感じることはなく、ゲーム自体に没入することができました。また、3DのRPGもプレイしましたが、描画がガタつくということもなく、スムーズに操作できた印象です。

パレルス・デスクトップ18では、Xboxやプレイステーション用のコントローラを簡単に接続できるようになっています。Mac上でブルートゥース接続が完了すれば、ウィンドウズ側で特に何かを設定しなくてもそのまま認識できました。

なお、プレイステーション用のコントローラを接続してもウィンドウズ上ではXbox用コントローラとして認識されましたが、使用に関しては問題はありませんでした。必要に応じて各ゲームソフト上でキー設定を変更しましょう。



ゲームプラットフォーム「STEAM」で公開中のRPG「Little Witch Nobeta」。3Dゲームですが、動きはなめらかでした。
図 <https://www.littlewitchnobeta.com/ja/>



図 <https://www.xbox.com/ja-JP/games/asphalt-9-legends>

Microsoft Storeで公開されているレースゲーム「アスファルト9:Legends」。なぜかメニュー画面などでチャプキが発生しましたが、レース中は画面の乱れもなく快適にプレイできました。



「DirectX 12」が必要なゲームをプレイしようとしたところ、インストールは完了したものの起動することができませんでした。



図 https://store.steampowered.com/app/1872680/The_Knight_Witch/?l=japanese

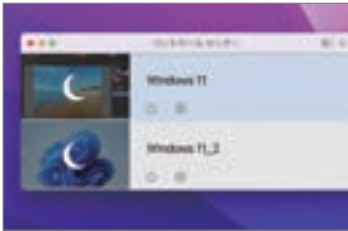
同じくSTREAMで公開中の「The Knight Witch」。激しい横スクロールシューティングゲームですが、遅延なども特ありませんでした。

COLUMN

Windows PCよりParallels Desktopのほうが速い？

Macユーザがメールなどで書類を受け取ってWindowsで開く必要が出てきたとき、実際のWindows PCやBoot CampよりもParallels Desktopを使ったほうが素早く快適に目的を達成できるかもしれません。

Parallels Desktopには「サスペンド」という機能があります。Windowsをシャットダウンすることなく、起動した状態のまま仮想マシンを閉じることができる機能です。この機能を使えば、実際のWindowsを起動して書類を開く…といった操作よりもスピーディに目的を達成できるのです。



Parallels Desktopでは、仮想マシンをLaunchpadに登録してワンクリックで起動できます。検証を行った結果、Launchpadのアイコンをタップしてからわずか8秒でParallels Desktop自体の起動→サスペンドからの復帰が完了し、Windowsが操作可能になりました。

便利機能③ さまざまな表示モードを使い分ける

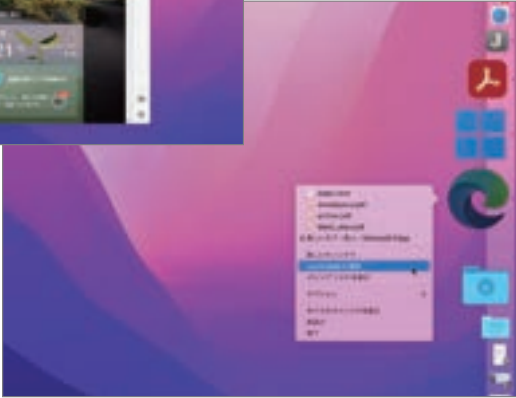
Parallels Desktopには、さまざまな表示モードが用意されており、使いこなすことで日々の作業がより快適になります。

まず押さえておきたいのが「Coherence（コヒーレンス）」モード。これは、使用するソフトのウインドウだけをMac上に表示するモードです。ユーザはそのソフトがWindows用のソフトかどうかをほとんど意識することなく利用できます。よく使うソフトが決まっているという人は、そのソフトをドックやLaunchpadに登録しておくとともに便利です。

もう一つ覚えておきたいモードが、「ピクチャ・イン・ピクチャ」です。Windowsの画面を縮小サイズでMacの画面の片隅に置いておくことができます。Webカメラやライブカメラの映像、あるいはCGレンダリングや動画の書き出しなど時間がかかる処理の状況監視などに活用できます。



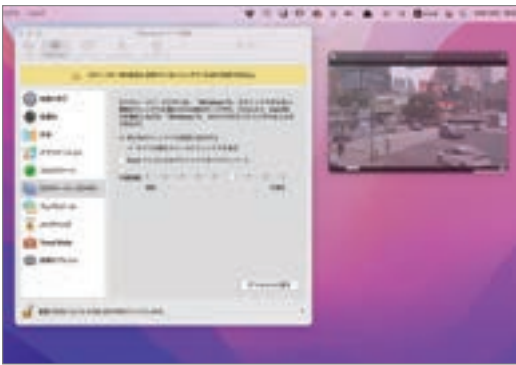
① Coherenceモードを使うと、Windowsのデスクトップは表示されず、使用するソフトのウインドウだけが表示されます。



② Windows上で起動しているソフトはMacのドックに表示されます。アイコンを長押しして[Launchpadに追加]や[Dockに追加]を選んで登録すれば、次からはそのアイコンをクリックするだけで直接ソフトを開けるようになります。

③ メニューバーの[表示]メニューから[ピクチャ・イン・ピクチャ]を選ぶとこのような表示になります。画面サイズはドラッグで変更できます。

④ ピクチャ・イン・ピクチャは、不透明度を変更できます。設定は[構成]ウインドウの[オプション]→[ピクチャ・イン・ピクチャ]から行います。

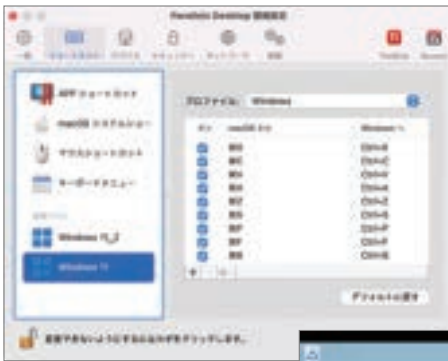


便利機能④ Mac特有の操作感でWindowsを扱う

Parallels Desktopは、Macユーザが普段行っている操作でWindowsを操作できるような配慮が数多く盛り込まれています。

たとえば、ご存じのとおりMacのキーボードショートカットは[command]キーとほかのキーを組み合わせたものが多いですが、本来Windowsは[Ctrl] (Control) キーを使うのが基本です。Parallels Desktopは、こうした仕様の違いにユーザが戸惑わないように、[command]キーでもキーボードショートカットができるようになっています。Windows上で「コピー」をしたときには[command]キー+[C]キーでも、[control]キー+[C]キーでも反応します。

また、Macユーザにはお馴染みのマルチタスク機能「Split View」はParallels Desktopで使うこともできます。画面の半分にWindowsのソフト、もう半分にMac用のソフトといった組み合わせも可能です。



① [Parallels Desktop] 環境設定の中にある[ショートカット]タブでは、キーボードショートカットのカスタマイズができます。ほかのキーボードショートカットとバッティングしたときはここから変更しましょう。

② WindowsでもSplitViewが使えます。Windows側で開いた書類を参照しながら、Macの文書作成ソフトでレポートをまとめるといった使い方が可能です。



CHAPTER 4

Windowsマシン以上の快適さ!? Parallels Desktopの便利機能

Parallels Desktopにはたくさんの機能が搭載されています。それらを知ること、実際のWindowsマシンを操作するよりも、便利にWindowsを使うことができます。「Mac×Parallels Desktop」ならではのメリットを存分に堪能しましょう。



便利機能① スナップショットで仮想マシンの状態を巻き戻す

Macには「Time Machine」というバックアップ機能が標準で備わっていますが、Parallels Desktopにもスナップショット」という便利なバックアップ機能が存在します。

スナップショットでは、ユーザが任意のタイミングで仮想マシンの状態を丸ごと保存しておくことができます。たとえば、Windowsのシステムに関わる部分をカスタマイズするようなソフトをインストールする前にスナップショットを作成しておけば、万が一問題が発生してもインストール前の状態に戻せるというわけです。

また、スナップショットの作成をスケジュール化することで、ケアレスミスによるデータの消失なども防げるようになります。なお、スナップショットを作るたびに仮想マシンのファイルサイズが増えてくため、自分のマシンの空き容量に注意しながら設定しましょう。保存するスナップショットの数は任意で変更可能です。



① メニューバーの中にある[処理]メニューの中に[スナップショットの作成]や[スナップショットの管理]といった項目があります。ユーザの好きなタイミングで状態を保存したり、元に戻したりといったことが可能です。

② [構成]ウインドウを開いて[バックアップ]タブに切り替えると[SmartGuard]という項目があります。これにチェックを入れると、定期的にスナップショットを作成します。作成の頻度や保存しておくスナップショットの数は[詳細]ボタンから設定できます。

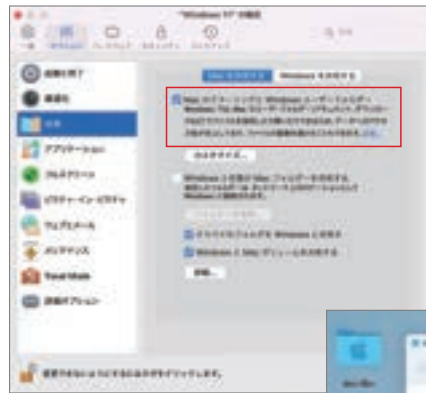


便利機能② 共有フォルダを使ってMacとシームレスに連携する

MacとWindowsの両方からアクセスできるフォルダがあると、ファイルのやりとりにも便利です。実はParallels Desktopはこうした「共有フォルダ」の考え方が行き届いており、最初から手厚く設定されています。

標準設定の場合、WindowsのデスクトップはMacのデスクトップと共有されています。Mac上でデスクトップにファイルを置いておけば、Windowsでもすぐに辿り着けるわけです。同様にWindowsの[書類]や[ピクチャ][ダウンロード]といったフォルダも、それぞれMac上の同名フォルダと共有されています。

共有フォルダはやりとりが簡単になるだけでなく、OSごとに個別でファイルを持つことがなくなるため容量削減にも役立ちます。ただし、共有フォルダ内のファイルはスナップショット機能で巻き戻せない点には注意しましょう。Windowsでしか使わないファイルは、共有フォルダ以外の場所に置いておくのも一つの方法です。



① 共有フォルダの設定は[構成]ウインドウの[オプション]→[共有]から設定できます。[MacのミラーリングとWindowsユーザーフォルダー]にチェックを入れておくと、デスクトップや書類などが共有フォルダとして扱われます。

② 上の共有設定画面で[クラウドのフォルダをWindowsと共有する]にチェックを入れると、Windowsのデスクトップ上にある[Mac Files]フォルダからiCloudなどのデータにアクセスできます。

